県文化懇話会賞に勝野さん

新人賞は田中さん

県文化懇話会（村上輝和代表世話人）は4日、第55回県文化懇話会賞を彫刻家で崇城大芸術学部教授の勝野眞言（まこと）さん（66）＝熊本市＝に、同会新人賞を民謡歌手の田中祥子さん（50）＝同市＝に贈ると発表した。

主に昨年1年間に芸術分野で活躍した県内在住の個人に贈る。同会世話人らの推薦を基に、選考委員7人が決めた。

勝野さんは長野県南木曽町出身で、武蔵野美術大大学院修了。日展特選を1987年と91年の2度受賞するなど早くから実力を認められ、2006年に崇城大教授に着任した。

昨年、改組新第6回日展彫刻部門で最高賞の文部科学大臣賞に県内で初めて選ばれた。学生を指導するとともに、地域に根ざした芸術活動を実践している。

田中さんは民謡歌手・早坂光枝さんに師事し、1990年デビュー。国内外で公演を重ね、自ら指導する「光祥会」で後進の育成にも取り組む。キングレコード所属。

受賞者には賞状と記念品、副賞（懇話会賞20万円、新人賞10万円）が贈られる。新型コロナウイルスの影響で贈呈式の日程は未定。

（園田琢磨）

県文化懇話会賞を受賞した彫刻家　勝野（かつの）　眞言（まこと）さん

一貫して人物表現を追い求めてきた。研究室に所狭しと並ぶ作品は静かで、強く、存在感を放つ。昨年、椅子に横たわる女性像が改組新第6回日展彫刻部門で最高賞の文部科学大臣賞を受賞。「積み重ねてきたものを評価してもらえた」

長野県南木曽町出身。山深い自然に囲まれて育った。記憶に刻まれたその風景は、50年近く向き合う人体の曲線に今も重ね合わせてしまうという。

巨匠のロダンや同郷の荻原守衛に影響を受け、武蔵野美大で彫刻に進んだ。当時は前衛的な抽象彫刻が注目を集めていたが、「人物ができなければ、自分のイメージも形にできない」と、具象の人体にこだわった。

だが、制作には長い間自信が持てなかったという。納得いく作品ができず、「人間の生命力をつかみたい」と対象に迫った。彫刻を続ける決意ができたのは39歳。娘をモデルにした作品を手掛ける中で、柔らかさや匂いなど「その時の感じを作ればいいんだ」と目が覚めた。

日展や日彫展、コンペなどで受賞を重ね、2006年に崇城大に着任。指導の傍ら、天草陶石を使った独自の表現も模索し、人間の繊細な表情を映し出す作品作りに取り組む。「白磁の伝統と造形が結び付き、地域に新たな美術が根付けば」と教え子らも巻き込む。

大学の任期も残り1年半。熊本での個展や、野外で高温焼成する大型作品の制作など、やりたいことはまだまだある。66歳、日展特別会員。妻と独立した2男1女は関東に住む。

（魚住有佳）

人（ひと）